

平成16年度第2回岡山市総合政策審議会 都市・交通部会の主な意見

- 1 日時 平成16年10月26日(火) 13:30～15:25
- 2 場所 岡山市役所分庁舎6階A会議室
- 3 参加者 委員15名中8名出席
岡山市(都市整備局)
池上都市整備局長、高橋まちづくり担当局長、井上局次長、
萩原都市開発部長、青木公園緑地部長、坪井土木部長、
安藤都市建築部長、佐藤西部新拠点まちづくり推進本部長ほか
(下水道局)
井上下水道局長、青山局次長、三垣建設部長ほか
事務局：高橋参事ほか

4 傍聴者 なし

5 会議概要

- (1) 都市整備局長、下水道局長あいさつ
- (2) 議題の説明、質疑応答および事務連絡

6 主な意見

1 道路愛称の公募について

(質問) 10路線愛称を募集するとのことだが、はっきりどこどこの道というのは決ま
っていないのか。

(回答) 前回の2回については路線を決定してそれに愛称を募集したが、今回は路線の選
定段階から市民公募型でやりたい。

(質問) 小学校や中学校、公共施設の窓口配布はどのような方法で、またアプローチで教
育関係へ働きかけるのか。

(回答) 教育委員会と協議し、各学校へチラシ配布をお願いする。また、市の公共施設は、
福祉事務所、ふれあいセンター等の公共窓口へ置いていただくことになっている。これ
ら以外は、今後各施設へ出向き窓口へ置いていただくよう協力要請する。

(その他の意見)

○柳川筋を歩いてみて、あまりのマナーの悪さに非常にショックを受けた。花や緑が植え
られている場所がごみ置き場になっていたり、自転車が山積みになっていたりする。こ
れは小さいときから、自分たちの町の道路が自分たちのものであるといった意識を育て
ていくことが非常に大切。

例えば、学校の授業の中で、自分たちのこの町や道路について愛称を実際に考えてみ
ようという取り組みと同時に、公共空間というものが日本人にとって、もっとも自分
たちの空間であるという意識を持つような教育を取り入れていくことも必要。

○愛称のわかりやすさという点で、「通り」と「筋」、市内中心部はこれを前提にしており大変良いことだと思うが、支所管内も同じ基準のほうが良いのではないか。

(部会長総括)

町に対する愛着を持たせることが町を良くすることの大きな要因だとする話は、非常に示唆に富んでいる。普段から、市民が町に対する関心や愛着とか、そういったものを持つような仕掛けを、また機会があればお示しいただきたい。

2 西部新拠点地区の現状について

(質問) いろいろな人に、いろいろな言い分がある。皆の意見を吸い上げていただけるような窓口はどこか。

(回答) 西部地区まちづくり推進課が窓口。

(質問) この西部地区だけでなく、中心市街地との関係を総合的な考えのもとに配置を考えないといけない。市民病院一つとってみても、西部へ行ったほうがいいのか、町中の小学校跡へ行ったほうがいいのか、様々な考え方がある。今、新駅ができるとか、土地を取得したりと、具体性を帯びてきた。岡山市における西部地区の位置づけなり、意義はこういうことで、その上でさらに具体化するにはどうするかということを決める段階に来ている。横断的な組織体系を作り、そこで総合的な対応が必要と考えるが。

(回答) 西部まちづくり推進課単体で動かせる話ではない。市民病院についても将来像検討委員会といった会も動いており、また、健康・福祉といったうたい文句もつけており保健福祉部局とも、あるいは中心市街地の関係では企画局とも横の連携を密にとり、十分連絡調整、協議を進めていく。また、小・中学校の統廃合の問題、西署の跡地等、跡地の問題がたくさん出てきている。そういったものと総合的に組み合わせ、いかに進めていくか、これについて委員の言われた組織のつくり方、あるいは声の聞き方といった点を含め、今一度改めて考え直す時期に来ている。

(質問) 西部第4、第5の区画整理事業に伴い、面整備が進んでいるが、雨水の受け皿がない。降った雨はすべて限られた用水にやってくる。先般の台風時も、水面と市道の高さが同じだった。また、笹ヶ瀬川の堤防が決壊するのではないかと心配され、車に子供を乗せて水が来ないところまで逃げようかという市民の方も随分いた。西部新拠点というのは、真っさらで、これからできる町。下水も含め、雨水対策等いかに住民が安心して生活できるような施策について教えていただきたい。

(回答) 西部第4、第5の水をどのように出すか、現在計画している。当面早く出来る方法として、分散して笹ヶ瀬川へ流そうという計画。これは、今の河川に耐えられるだけの水を順次、時間差を置いて出そうという計画である。将来的に、根本的な解決となると、河川改修と堤内地への貯留といったことも考えないといけない。現在、県が野殿大橋付近などで、水の容量を増やそうと河川改修を行っている。

(その他の意見)

- 笹ヶ瀬川の堤防の幅員を広げるのは難しいと思うが、児島湾や笹ヶ瀬川の浚渫により容量を増やすという方法は非常に有効ではないか。県のほうへもこういった要望が出ていることを伝えて欲しい。
- 当地区は、本庁管内のため消防、救急も中消防署より来るため、到達時間が意外とかかる。あれだけ人口が多いにもかかわらず、時間がかかることは問題。そのうえ、救急受け入れの病院がない。
- 地域の住民感情として理解いただきたいのが、今地区に卸センターが出来た際、たくさん減歩されたり、土地提供されたりということで、この地区の住民の方は中心部に対してかなり協力している意識がある。操車場を受け入れたのもあの地区。地域住民は、新駅ができ、ここに新しいまちができるということを大変期待している。

(部会長総括)

岡山市として大規模に対応できる最後の土地みたいなものゆえ、道を誤らないように、後生に言われたいようなものを是非やってほしい。そのためには、市民からのご意見、また当部会も十分活用し、より良い選択をしなければならない。

3 旭西処理区合流式下水道の改善計画について

(質問) 旭西浄化センターの放流回数を見ると、降雨時はほとんど汚水を未処理のまま放流していることになるが、当初の下水道の計画段階ではそういったことは考えていなかったのか。それとも、50年が経過し、人口増による使用量の増加によるものなのか。

(回答) 最初から、合流式下水道というカタチで、すなわち雨の時には未処理で放流することもやむを得ないということで整備している。これは全国的に大きな都市では、古くから下水道の整備に関わっている都市の大部分で、この合流式下水道を採用している。

(質問) 今回の計画の総投資額はどれくらいか。

(回答) この合流式改善に要する費用について、細かい点についてはじいてはいないが、計画をすべて行うとすると数十億単位になるか。これは次回にお示しする。一番大きな問題が、巖井ポンプ場の近くにスペースが無いいため、巖井排水区の中に雨水滞水池なり貯留池といった雨水を貯める施設を作ることが難しい。その部分が費用の大部分を占めることから、費用対効果等をあわせ、次回の部会でお示しし、ご意見を集約したい。

(部会長総括)

政令の公布により放流水の新たな水質基準が制定されたということで、「やらない」という選択肢は無いわけで、とはいっても、技術的な問題や用地の問題等ある。極力コストを下げて、しかも所定の目標をクリアしなければならない。